

弥生時代に思いはせ



貫頭衣を着て赤米の苗を植える児童

児童が赤米の田植え

下関 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

下関市豊北町の土井

ケ浜遺跡・人類学ミュ

ージアム（松下孝幸館

長）で9日、地元の豊

北小（船木美弘校長）

の5年生が赤米の田植

えを体験した。赤米は

弥生時代に食べられて

いた古代米に近いとさ

れ、児童たちは弥生時

代の衣服を着て弥生人

になりきり苗を植えて

いた。

土井ヶ浜遺跡は約3

00体の人骨や貝製の

装飾品などが出土して

おり、弥生時代の埋葬

跡として名高い。遺跡

からは稻穂を刈り取る

際に使用する石包丁や

水田の跡も発見されて

おり、この土地に住ん

でいた弥生人は古代米を食べてないと考えられている。

田植え体験は今回で

31回目。弥生時代の生

活を体験し、地元の伝

統や文化、食などにつ

いて関心を持つてもら

おうと同ミュージアム

が毎年開催している。

児童33人は田植えの

前に、松下館長から植

え方の説明を受けた。

松下館長が約15秒の苗

が植えられた直後の田

んぼと、約40秒の高さ

に苗が成長した3カ月

後の田んぼの写真を比

較するように見せて

「こんなに成長します」

と説明すると、児童か

らは驚きの声が上がった。

西嶋昭二さん（57）の指導を受けながら、一列に並んで田植え定規に合わせて丁寧に苗を植えていった。

初めて田植えを体験した松平幸己さん（10）

は「足がぬかるみには

まって抜けなくなり、

田植えの大変さを知っ

た。大きく育ってほしい」と話していた。

児童たちの田植えを

見守っていた松下館長

は「弥生時代の田植え

を通じて、地元や食に

関心をもってほしい」と語った。赤米の収穫

量は2022年、約60

キロと不作だった。今年

は80キロを目標として

おり、10月末に児童に

よる稻刈りも予定して

いる。